

創世記4章3－5節 「受け入れられない献げ物」

1A 信仰による献げ物

1B 主の贖い

1C 皮の衣

2C いけにえ

2B 大地の実り

1C 呪われた大地

2C 自分の行い

2A 肉の思い

1B 信仰による正しさ

2B 悪い行い

3B 恵みのみによる救い

3A 十字架につけるべき罪

1B 治めるべき罪

2B 妬みから殺意へ

3B 御霊の人に対する迫害

本文

創世記 4 章を開いてください。私たちの聖書通読の学びは、前回、創世記 3 章まで来ました。午後礼拝で、4 章と 5 章を一節ずつ学んでいきます。今朝は、4 章 3-5 節に注目します。「³しばらく時が過ぎて、カインは大地の実りを主へのささげ物として持って来た。⁴アベルもまた、自分の羊の初子の中から、肥えたものを持って来た。主はアベルとそのささげ物に目を留められた。⁵しかし、カインとそのささげ物には目を留められなかった。それでカインは激しく怒り、顔を伏せた。」

罪をアダムが犯し、アダムとエバがエデンの園を追放されました。それから、エバが、男の子カインを産みました。そしてアベルを産みました。カインは大地を耕す者、アベルは羊をその後、起こった出来事を読みました。この後で、カインが怒り、落ち込み、アベルを妬んで殺してしまいます。

ここの箇所を読んで、多くの人が、「どうして、アベルの献げ物だけに神は目を留めたのだろうか？そしてカインのには、なぜ目を留めなかったのだろうか。」という疑問を抱きます。そのことに、真っすぐ取り組んでいきたいと思います。

1A 信仰による献げ物

幸いなことに、新約聖書には、主イエスご自身も、使徒たちも、アベルとカインのことを語ってい

ます。そこで、ここの出来事の意味や意義が説明されています。まず、ヘブル人への手紙 11 章を見えています。「11:4 信仰によって、アベルはカインよりもすぐれたいけにえを神に献げ、そのいけにえによって、彼が正しい人であることが証しされました。神が、彼のささげ物を良いささげ物だと証ししてくださったからです。彼は死にましたが、その信仰によって今もなお語っています。」

アベルの献げ物は、信仰によるものだったと書いています。その信仰による行動によって、良い献げ物だと神がみなされました。これがアベルの献げ物で、カインのはそうではないことが暗に書かれています。

1B 主の贖い

1C 皮の衣

私たちは、前回 3 章を見ました。アダムが罪を犯した直後に、主はすでに、その罪と恥を覆うことを行ってくださいました。「3:21 神である【主】は、アダムとその妻のために、皮の衣を作って彼らに着せられた。」

アダムとエバは、自分たちが裸なのを知って、いちじくの葉で、自分たちの隠しどころを覆ったのですが、主が園の中を歩いておられると、それでも身を隠したのです。つまり、いちじくの葉で覆っても、恥は取り除けなかったのです。

これは、自分たちの努力で罪から来る恥を覆おうとしても、できないことを証ししています。ある人は、自分の負い目について何かに打ち込んで、贖おうとします。何か人生で成果を上げようとします。またある人は、宗教の中で解決しようとします。またある人は、逸脱した行動を取り始めます。依存症になったりします。けれども、神に対して罪を犯したということについて、自分自身で取り繕っても、無理なのだということを教えているのです。

しかし、ここでは主ご自身が、彼らの恥ずかしいところを覆ってくださいました。このように、罪を覆うことを、「罪の贖い」といいます。自分自身で罪の負債を返済しようとしても、できないのだということを教えてくれますが、神ご自身がその処理をしてくださるのはできるのです。これを、聖書では、「恵み」と言います。自分の努力でよくみられるのではなく、全く、好意を受けるに値しないのに、一方的に良く思われることです。神ご自身が、アダムとエバを憐れんで、彼らの罪と恥を覆ってくださいましたのです。

2C いけにえ

しかし、それが「皮の衣」によるのです。ということは、主がお造りになられた動物を屠って、その流された血の犠牲があって、彼らの罪と恥が覆われたのです。自分たちがそれを身につける時に、尊いいのちが犠牲になっていること、生きている物の血が流されたことを実感して、身につけてい

たことでしょう。

主はアダムに、善悪の知識の木から実を取って食べたなら、必ず死ぬと言われました。それで、アダムは神から離れ、またその肉体は塵に帰ると神は宣言されました。しかし主は、彼またその子孫が減びるのを願っておられません。ですから、彼らに対する対価、死の対価を代わりに受ける対象をくださいました。代償としてのいけにえです。

このように、主はすでに、人が神に近づくのに、罪のためのいけにえの方法を示しておられました。そして、これがカインにも、アベルにも伝えられていたはずです。信仰とは何か？それは、主なる神の示されたことを聞いて、そのまま信じて、受け入れることです。人は、神のかたちに造られたことを私たちは学びました。神のかたちとは、目に見えない神が、目に見える形で現れていること、神の像であることを学びました。神のかたちとして人は、神により頼み、そのいのちに結ばれて、それで神に任されたものを支配するのです。

ですから、信仰の原則によって人は生きます。その言われたことをそのまま聞いて、信じて、その通りに行く時に、主はそれを喜ばれます。息子のことをこよなく愛している父親が、その幼子に、こうなさいと命じますね。息子がそれを行っていけば、父親は満足します。それと同じです。

ですから、アベルのしたことは、主にとって良いとみなされたのです。4 節に「**アベルもまた、自分の羊の初子の中から、肥えたものを持って来た。**」とあります。彼は、主への信頼を持って、主が示してくださったとおりの、動物のいけにえを持ってきたのです。

しかも、ここでは、自分の羊の初子ですから、最も尊いものですね。今後、律法では、初子、すなわち初めに生まれた雄は、主のものと定められます。その肥えたもの、つまり上等の物を持ってきました。まず、自分自身のこととして、自分の最善のものを献げたのです。新約聖書には、神が世を愛してくださったのは、その独り息子です。独り息子であるイエス・キリストを、罪のためのいけにえとして私たちにくださったのです。これほど尊い犠牲なのですから、そこに対する感謝は、自分自身も主に対して、最善のものを献げることになります。

2B 大地の実り

1C 呪われた大地

では、カインの献げ物はどうか？大地からの作物ですが、アダムに対して、主は呪いを宣言されていました。「3:17-18 **あなたが妻の声に聞き従い、食べてはならないとわたしが命じておいた木から食べたので、大地は、あなたのゆえにのろわれる。あなたは一生の間、苦しんでそこから食を得ることになる。18 大地は、あなたに対して茨とあざみを生えさせ、あなたは野の草を食べる。**」このように、大地から出るものにまで、呪いが及ぶことを宣言されていたのです。それに

も拘らず、彼は、これらを主の前に持っていきました。

2C 自分の行い

ここで彼は、自分の耕した大地の実りを持ってきたことが分かります。自分のしてきたことを、そのまま神に認めてもらおうとしているのです。しかも、アベルが自分の羊と強調されているのに対して、カインについては言及がありません。彼自身が持ってきたものではなさそうです。

要は、自分のしてきたことを、そのまま神に認めてくれというような態度です。現代社会で分かり易くいえば、「私は、自分を信じて、これまで会社で一生懸命働いてきた。だから、別に、他の特別な犠牲は必要ない。私のしてきたことで、私は認められるべきだ。」ということです。神を信じてください、キリストを信じてくださいと勧められても、「そんなものは不要。私は私で、自分でやってきたのだから。」という態度です。

信仰は、自分自身には良いものはない。ただ神の恵みによって生きるのであり、神に頼り、神に言われたことで生きていくのだということに対して、「自分にあるもので、自分の良さ、自分の正しさに生きていけばよい」としていること。これが、神には受け入れられないのです。

2A 肉の思い

1B 信仰による正しさ

ところが、アベルの信仰による行動によって、カインの悪さがばれてしまいました。使徒ヨハネは第一の手紙でこう言っています。「3:12 カインのようになってはいけません。彼は悪い者から出た者で、自分の兄弟を殺しました。なぜ殺したのでしょうか。自分の行いが悪く、兄弟の行いが正しかったからです。」

人間目線では、カインのしていることは、何ら悪いことではありません。自分の育てた作物を持っていくことに、どこが悪いものがあるのでしょうか？しかし、今、アベルがいました。彼が神を信じて行動しました。そこにある正しさに照らされて、人間目線では悪いことでなくとも、その行いが悪いことが明らかにされたのです。

2B 悪い行い

信仰によって動くと、そこには神の恵みがあります。本人は、罪深い者です。本人はあまりにも足りない者です。その人が正しいのではなく、恵みによって神の正しさと聖さが証しされるのです。ここが大事ですね。みなさんが、主が正しいとして、へりくだって生きるなら、そこで主の聖さが現れるのです。

ですから、恵みによって立っている人のそばにいと、そうでない人は、良い人だと人間的には

思われていても、実はそうでないことが露わにされます。信仰の人の行動によって、周りの人の心が光に照らされるのです。

良きサマリア人の話を思い出します。ある律法の専門家がイエス様に、「どうしたら、永遠のいのちを受け継ぐことができるか」と尋ねたら、イエス様が、「律法に何と書かれているか」と逆に尋ねられて、「主を愛すること」と、それから、「あなたの隣人を自分自身のように愛しなさい。」と答えました。イエスは、「それは正しいから、実行しなさい」と言われたのです。ところが、彼は、「では、私の隣人とはだれですか。」と尋ねました。ルカがこう書いています。「**自分が正しいことを示そうとしてイエスに言った。(ルカ 10:29)**」自分が隣人を愛することについては、実行していると自負していたのです。

イエスは、それで半殺しにされたユダヤ人を、祭司やレビ人が介助せずに、通り過ぎた話をされました。けれども、サマリア人が介抱したのです。そして、同じようにしなさいと彼に勧めました。ユダヤ人とサマリア人は、とても不仲です。サマリア人とは付き合いたくありません。彼は、そうした心の葛藤を乗り越えて、隣人を愛していなかったのです。

3B 恵みのみによる救い

こうして、自分の行いの努力で生きている人は、主に信頼して生きている人によって、自分の心が露わにされます。そこで、その人は、自分自身が罪深く、心が汚れており、神の憐れみを請い求めるところまで、導かれる必要があるのです。そして、神の恵みによってのみ、救われるのだというところまで導かれたら、その人は神に受け入れられます。

3A 十字架につけるべき罪

これを、新約聖書では、「罪を十字架につける」と表現しています。「ガラ 5:24 **キリスト・イエスにつく者は、自分の肉を、情欲や欲望とともに十字架につけたのです。**」自分の思いが、どんなに正しく、良いように見えても、主の聖さと正しさに照らされたら、どれだけ醜いかが知れます。そこで、自分で自分を直そうとすることができないのだということを、とことんまで知ります。それで知るので、「キリストが十字架につけられた時に、罪に支配されているこの自分とともに十字架につけられたのだ」と。「2:19b-20a **私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。**」

おおっぴろげに罪を犯している人ならば、自分が罪人であることを認めるのは、比較的容易でしょう。けれども、正しく生きようとしている人が認めるのは、容易なことではありません。しかし、律法を守ることに非の打ちどころのないとされていたパウロは、キリストの弟子たちを見たら、恐ろしいほどの殺意を抱き、彼らを打ち叩き、死にまで至らしめ、それで神に仕えているのだとみなす、狂信者と化してしまったのです。それで、彼は分かったのです。自分は「罪人のかしら」だ

と。テモテに対して、第一の手紙 1 章で、自分が殺人の罪まで犯し、また御名を冒瀆させるという、恐ろしい罪も犯した者として、告白しているのです。

だから、自分にとって利点とされていたことを、パウロは、きっぱりと「ちりあくた」と言ったのです。「ピリ 3:7-8 しかし私は、自分にとって得であったこのようなすべてのものを、キリストのゆえに損と思うようになりました。8 それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、私はすべてを損と思っています。私はキリストのゆえにすべてを失いましたが、それらはちりあくただと考えています。」「ちりあくた」と訳すときれいに聞こえますが、このギリシア語は、「糞」とも訳せます！自分が成し遂げたあらゆる偉業が、また利点が、キリストのすばらしさに比べれば、糞のようなものだとしているのです。

ここまでみなす、つまり、へりくだることができるのは、自分が謙遜になる努力などという次元のものではなく、主ご自身の正しさや聖さに触れて、自分がどれだけ心汚れているのかが、示されることなのです。教会では、この訓練を受けていると言ってよいでしょう。私たちがすること、なすこと、すべて、主を信じる者たち間におられる聖霊が、心の奥底まで照らされます。そして、自分自身が、ただ神の恵みによって生きているのか、すなわち自分自身はキリストを十字架につけるほど罪深いのか、分かるということです。

1B 治めるべき罪

カインは基本、このような試みを受けたと言って過言ではありません。信仰によって正しいことをしたアベルによって、自分の悪い心が明らかにされたのです。しかし、彼は正しく応答しませんでした。5 節後半を見てください、「**それでカインは激しく怒り、顔を伏せた。**」顔を伏せています。落ち込んでいるのですが、その理由は、激しい怒りです。怒る時に、人は外にぶちまけることもあります。けれども、内側に秘めることもありますね。カインは、これをやりました。顔を伏せているのは、ありのままの自分に対峙することをせず、その激しい怒りを隠しているからです。

そこで主が、寄り添います。6-7 節を読みます。「⁶ 主はカインに言われた。「なぜ、あなたは怒っているのか。なぜ顔を伏せているのか。⁷ もしあなたが良いことをしているのなら、受け入れられる。しかし、もし良いことをしていないのであれば、戸口で罪が待ち伏せている。罪はあなたを恋い慕うが、あなたはそれを治めなければならない。」

これはちょうど、蛇がエバに来て、虎視眈々と彼女の心を奪おうと狙っていて、見事に捉えることができたのと似ています。罪が待ち伏せしています。それで、「恋い慕う」という言葉ですが、支配しようとしているという意味です。けれどもそうではない、あなた自身が罪の誘惑を治めなければいけないのだということです。

私たちは、主の御霊によって、自分の欲に対して自らを治めないといけません。「ロマ 8:13 もし肉に従って生きるなら、あなたがたは死ぬことになります。しかし、もし御霊によってからだの行いを殺すなら、あなたがたは生きます。」自分自身に対して、真のリーダーシップを取ることで、自分に対して、神の霊で治めるのです。

2B 妬みから殺意へ

ところが、カインは自己憐憫に陥り、治めることを拒否しました。神は、「⁷ もしあなたが良いことをしているのなら、受け入れられる。しかし、もし良いことをしていないのであれば、戸口で罪が待ち伏せている」と言われています。つまり、カインが良いことをしていないことを、彼自身が知っているのです。

そして、神の前で良い心で献げなかったことを知りながら、それを認めず、矛先をアベルに向けました。神を拒んでいるのに、神に認められたアベルを妬んだのです。人が、信仰による人、恵みによって生きる人を妬むのは、それは、自分自身が神の前に出ることを拒否しているからです。自分自身と神との問題なのに、それを見つめず、神のかたちに造られている人に向かいます。一言でいえば、「妬み」です。

そして妬みは、殺意へと変わり、死という実を結びます。「ヤコブ 1:14-15 人が誘惑にあうのは、それぞれ自分の欲に引かれ、誘われるからです。15 そして、欲がはらんで罪を生み、罪が熟して死を生みます。」

3B 御霊の人に対する迫害

そして、カインはアベルを殺します。

イエスご自身が、後に同胞のユダヤ人指導者から妬みを買って、迫害され、死に至りました。もちろん、主は父なる神のご計画で、それが世の救いであることを知って、自ら十字架につけられるようにお決めになりました。けれども、カインの流した血の延長として、彼らが妬みによって、仲間を迫害し、殺し、血を流していると責めたのです。「マタ 23:35 それは、義人アベルの血から、神殿と祭壇の間でおまえたちが殺した、バラキヤの子ザカリヤの血まで、地上で流される正しい人の血が、すべておまえたちに降りかかるようになるためだ。」

私たちは、迫害は世から来るものだと思っています。しかし、教会やキリスト者にほとんど接触のない一般社会から来ると思ったら間違いです。知らないのですから、妬みようがないのです。何かなんだか分からないというのが実情です。では、どのようにして迫害が来るのか？それは、光が世に来ているのに、自分自身は闇を愛して、光の方に来ないからです。光に照らされたけれども、光の方に来るのを拒んでいるからです。

つまり、すぐそばにいる人々です。肉の人が、御霊の人たちを迫害するようになります。「ガラ 4:29 けれども、あのとき、肉によって生まれた者が、御霊によって生まれた者を迫害したように、今もそのとおりになっています。」

小説また映画化もされた「沈黙」があります。遠藤周作によるものです。そこで、クリシタンの迫害に手を貸しているのは、転んだ人々、すなわちクリシタンだったけれども信仰を棄てた人々です。元クリシタンだからこそ、クリシタンのことが分かるのです。映画「沈黙」においては、主人公の宣教師が信仰を棄てる時に、その踏み絵のイエスが、踏んで良いのだと誘いかけています。そのイエスは、私にはサタンに見えました。

その主人公は、さらなるクリシタンの迫害で、元宣教師だからわかる情報を選び分ける作業に付かされていました。自分自身が信仰を棄てないから、他のクリシタンに迷惑をかけていると言われていたのですが、妥協したことによって、最も迷惑をかけていること、すなわち信仰を棄てるように強要する急先鋒になっています。

ですから、強くお勧めします。恵みのあるうちに、恵みを受け入れてください。主が、罪人のために来られて、身代わりに死なれました。この愛を受け入れてください。さもなければ、自分の罪は心の中だけに終わらず、大きくなって、ついに行いに出ることになります。自分の罪を治める方法は、自分自身が、キリストでなければ、その憐れみにあずからなければ、救われないと知ることです。へりくだります。そして悔い改めて、神に立ち返ります。